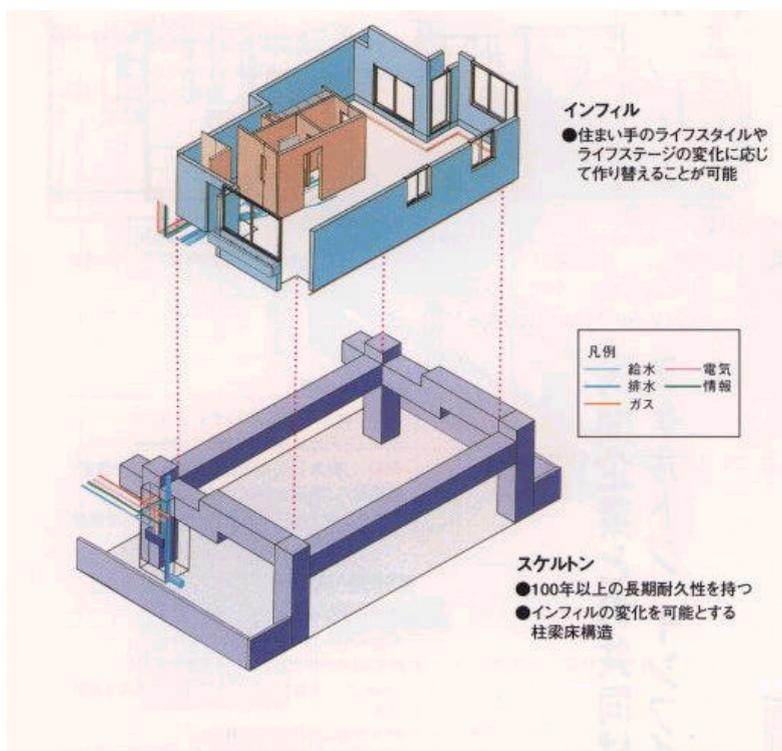


SI（スケルトン・インフィル）型住宅

技術概要

SI（スケルトン・インフィル）型住宅とは、集合住宅等において、相対的に公共性が強い、基幹的・共同的・耐久的部分であるスケルトン（構造躯体および共用設備）と、私的性が強い、末端的・個別的・消耗的部分であるインフィル（内装や住戸内設備等）に区分し、両者を異なる原理で設計した住宅を指す。



出典：都市基盤整備公団HP

(<http://www.udc.go.jp/architect/f4pamph/b/b-frame.html>)

図 SI型住宅のイメージ

新都市での導入効果について

新都市では、首都機能に従事し、リタイア後には別の場所で暮らす市民も想定されるので、従来の都市と比較すると人の移動が激しいと考えられる。また、実験都市、モデル都市という都市の性格を考慮すると、技術の進化によりライフスタイルのあり方そのものが変化するというようなことも想定される。SI型住宅を導入することにより、人の移動やライフスタイルの変化への対応が比較的容易になるので、建替え等の需要を減らすことができ、結果として建材等の資源使用量・廃棄量の削減等の効果が期待される。

導入における課題（対応策）

SI型住宅における実際の居住実績は十分でないこともあり、導入後、数十年をかけてソフト面を含めてモデル的な運用が必要となる。

新都市では、住まい方自体もモデル性を意識して実験を行うというスタンスをもち、SI型住宅の実用化、システムの改善等に積極的に寄与する。

その他（導入状況・技術開発等動向・将来見込み等）

SI型住宅：ハード的にSI構造になっている住宅は、いくつかの住宅メーカーが実用化している。スケルトンとインフィルの所有を分離した賃貸住宅タイプの実用化に向けては都市基盤整備公団が「K S I（公団スケルトンインフィル）」として開発を進めており、平成10年には、実験施設として八王子市にある建築技術試験場に「K S I住宅実験棟」が完成している。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成